

第17回下妻カップサッカー大会 報告書

報告者：5年担当：木幡 正人

平成20年3月11日

1.大会概要

(1) 日程

- ・平成20年3月8日（土曜日） 予選リーグ
- ・平成20年3月9日（日曜日） 順位決定リーグ

(2) 会場

- ・1日目：下妻小学校グラウンド
- ・2日目：旧千代川中Bグラウンド

(3) 環境（気候、G状態、移動）

- ・2日間とも出発時刻が6時であったが、体調を崩す選手はいなかった。また、気温は暖かく、グラウンドは土であり歩くと砂埃が舞うような状態であった。

2.大会での技術的な目標、テーマ

- ・指導方針でもある『1対1+ 状況判断』としては、ボール保持者を助けるための『ランニング』及び『積極的な仕掛け』を掲げ、今大会に挑みました。

3.試合結果、内容

(1)大会参加チーム

Aブロック		Bブロック		Cブロック	
Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ
FC 谷井田	八千代 SS	MFC 三菱	下妻 FC1984	下館小あしかび	エスぺランサ総和
城西 SSS	FC 北条	梨桑 FC	大田 SSS	鈴ヶ森キッカーズ	板倉 SC
神谷小	七重 SSS	中根 FC	総和南 FC	中志津 SC	水海道 SSS

Dブロック		Eブロック		Fブロック	
Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ
ロッキーワン SC	下妻 SSS	岩井オーレ FC	FC 郷州	真壁ジュニオール	YK・SC2007
石下 SSS	ひたちなか FC	伊奈 SSS	結城 SSS	吉沼 FC	三和 SSS
アストロン	北山 SC	春日部谷中 SS	古里 SC	南河内 SSS	バンビノー SC

(2)試合結果

1日目：予選リーグ Dブロック

	下妻 SSS	ひたちなか FC	北山 SC	勝	負	分	勝点	得点	順位
下妻 SSS		1 対 1	5 対 0	1	0	1	4	+5	1
ひたちなか FC	1 対 1		3 対 0	1	0	1	4	+3	2
北山 SC	0 対 5	0 対 3		0	2	0	0	-8	3

・1 試合目 9：40 対 下妻 SSS (茨城県)

ひたちなか FC 1 対 1 下妻 SSS

・2 試合目 12：20 対 北山 SC (埼玉県)

ひたちなか FC 3 対 0 北山 SC

・3 試合目 14：10 対 石下 SSS (茨城県)

ひたちなか FC 1 対 0 石下 SSS

試合結果より 3 位リーグ

2日目：順位リーグ

1 位ブロック		2 位ブロック		3 位ブロック	
Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ
神谷小	アストロン	七重 SSS	下妻 SSS	八千代 SS	ひたちなか FC
中根 FC	FC 郷州	総和南 FC	伊奈 SSS	下妻 FC1984	春日部谷中 SS
エスパランサ総和	三和 SSS	中志津 SC	真壁ジュニオール	板倉 SC	吉沼 FC

4 位ブロック		5 位ブロック		6 位ブロック	
Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ
城西 SSS	石下 SSS	FC 北条	ロッキーン SC	FC 谷井田	北山 SC
梨桑 FC	結城 SSS	大田 SSS	岩井オーレ FC	MFC 三菱	古里 SC
下館小あしかび	YK・SC2007	水海道 SSS	南河内 SSS	鈴ヶ森キッカーズ	ハンビロー SC

3 位ブロック (会場：旧千代川中グラウンド)

	春日部谷中 SS	ひたちなか FC	吉沼 FC	勝	負	分	勝点	得点	順位
春日部谷中 SS		0 対 8	0 対 3	0	2	0	0	-11	3
ひたちなか FC	8 対 0		0 対 0	1	0	1	4	+8	1
吉沼 FC	3 対 0	0 対 0		1	0	1	4	+3	2

・1 試合目 9:40 対 春日部谷中 SS (埼玉県)
ひたちなか FC 8 対 0 春日部谷中 SS

・2 試合目 11:00 対 吉沼 FC (茨城県)
ひたちなか FC 0 対 0 吉沼 FC

・3 試合目 14:20 対 板倉 SC (群馬県)
ひたちなか FC 0 対 2 板倉 SC

試合結果より 3 位リーグ 2 位

(3) 試合内容

今大会で勝つことができなかったチームには、ある共通点があった。共通点とは、ボールへの厳しいアプローチと単純に大きく蹴ることを行っていたチームである。ボール保持者への厳しいアプローチによりボールを奪い、相手 DF ライン裏のスペースへミスが少ない1本のパスに FW がオートマチックに合わせる戦術に対応することができなかった。また、DF がボールをコントロールできてもアプローチが厳しいことから簡単に蹴ってしまい、はやい攻撃への切り替えができなかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

ボール保持者を助けるための『ランニング』については、今大会を通じて多くの選手が選択していたことで、1対1を有利に進め、1対1で勝つ場面が多々あったことはトレーニングの成果として受け止めることができた。

『積極的な仕掛け』については、両サイドを有効に突破し、センターリングする場面が多くあり、得点を奪う可能性の高い攻撃を行うことができた。しかし、相手ゴール前での駆け引き、積極的な仕掛けから得点を奪うことはできなかった。

(2) 課題

指導方針である『1対1+ 状況判断』に重点を置いたトレーニングが中心であったことから、サイドエリアにあるスペースでの1対1では有利に運ぶことができたが、スペースのないゴール前など密集した状況での駆け引き、数的不利な場面での積極的な仕掛け、アイデアは表現することができなかった。

大会を通じて、スローインの反則が多くあり、特に攻撃への切り替え時に反則を取られた。また、審判への異議となるような発言があったことは非常に残念であった。